

大洲市民文化会館(仮称)整備基本構想 概要版

はじめに・基本構想策定の背景

大洲市民会館(以下「市民会館」という。)は昭和44年の開館以来、文化活動の拠点、各種発表の場など幅広い分野において多くの市民に利用されてきました。しかし、開館から52年が経過し、大規模な改修工事も行ってきましたが、施設本体や設備の老朽化が進行し、安全性や快適性など、これ以上の改修による対応が困難となっています。こうしたことから、市民会館の役割を担う大洲市民文化会館(仮称)を整備することとなりました。

基本構想策定にあたっては、アンケート調査や市民ワークショップ等を通して多岐にわたるご意見をいただきました。

こうした幅広いご意見を参考とさせていただくとともに、全国の先進事例や近年の文化芸術に関する動向、市内外の公共施設の状況などを踏まえ、新文化会館整備に向けた基本構想を策定しました。

第1章 現状と課題

1 文化振興の背景と動向

(1) 文化政策の動向

・国では文化芸術による心豊かな国民生活、活力ある地域社会の実現を目指して関連法を整備しています。

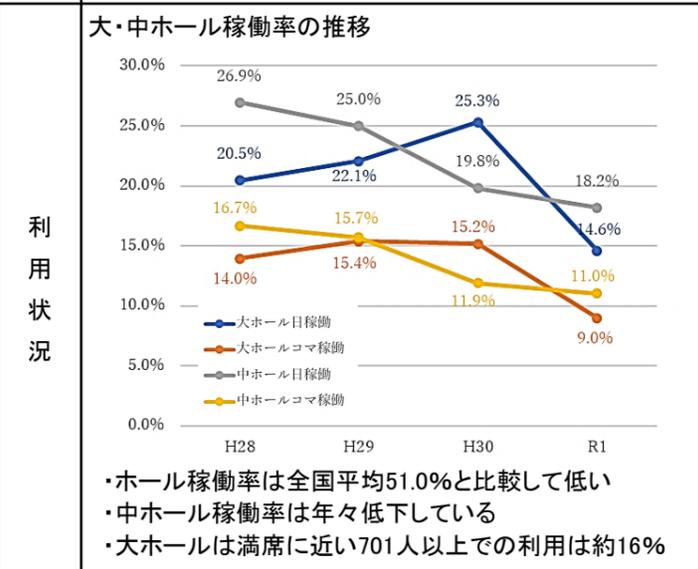
平成13年	文化芸術振興基本法制定
平成24年	劇場、音楽堂等の活性化に関する法律
平成25年	劇場、音楽堂等の事業の活性化のための取組に関する指針
平成30年	障害者による文化芸術活動の推進に関する法律
平成30年	国際文化交流の祭典の実施の推進に関する法律

(2) 文化芸術に関する社会的潮流

- ・文化芸術鑑賞市場は拡大傾向
- ・鑑賞に比べて文化活動への参加は低調
- ・「地域社会・経済の活性化」「子どもの心豊かな成長」「人々が生きる楽しみを見出せる」など様々な効果が期待されています。

2 大洲市民会館の現状と課題

建設	昭和43(1968)年
施設機能	大ホール(778席)、中ホール(200席) 1階第1会議室(23㎡)、1階第2会議室(56㎡) 1階調理室(74㎡)、2階第1会議室(84㎡)、 3階第1会議室(84㎡)、3階第2会議室(69㎡)



- 課題等
- ・施設: ニーズに対応した諸室の不足
 - ・ホール: 舞台やホール搬入動線が狭い
 - ・設備: 設備が古いため、最新の鑑賞事業受け入れが困難
 - ・その他: 駐車可能台数が少なく、大型車両の乗り入れが困難

(3) 市の関連計画

①第2次大洲市総合計画

・基本目標3 文化きらめくまちづくり
施策の大綱3-2:文化・芸術・スポーツの振興
本市の歴史や風土の中で育んできた文化や文化財、芸術を受け継ぎ、伝承していくとともに、その魅力を発信・活用し、文化・芸術に親しむ企画も創出や地域文化の創造につなげていきます。

②大洲都市計画区域マスタープラン

JR伊予大洲駅周辺部を核とした秩序ある土地利用形成及び各地域の交通・連携の促進と自然と調和した快適な生活を支える都市施設整備を目指します。

③大洲市復興計画

防災力の向上を目指します。

④大洲市公共施設等総合管理計画

公共施設等の量や質、管理方法を見直します。

3 大洲市の文化環境

市内及び周辺の文化施設

・大洲市民会館、大洲市長浜ふれあい会館のほか、地区公民館等も文化活動の拠点として利用されています。

・車で一時間程度で行ける範囲(半径40km圏内)には、多様な文化施設が分布。1000席を超えるものは以下の3館

- ①宇和島市立南予文化会館(大:1,400席)
- ②松山市民会館(大:1,999席、中:700席、小:200席)
- ③愛媛県民会館(大:3,000席、サブ:912席)



文化活動等の現状

・「おおず親と子のコンサート」や「市民大学」等、市民一人一人が生涯にわたって主体的に学び、心豊かで充実した生活を送ることができるような機会づくり等に取り組んでいます。

4 市民意見・関係団体等意見の集約

市民アンケート

実施時期 令和2年12月～令和3年1月
対象 ・大洲市文化協会加盟団体及び大洲市民会館利用団体
・大洲市内の中学校、高等学校の文化系部活動団体
・大洲市内の小学校で取り組まれているクラブ活動
回収数 142(回収率63%)

市民ワークショップ

第1回 令和3年2月20日(土) 参加者22名
テーマ 「新しい文化施設でやってみたいことを考えよう！」

第2回 令和3年3月20日(土・祝) 参加者22名
テーマ 「新しい文化施設にほしい機能、諸室を考えよう！」



▲市民ワークショップの様子

大洲市民文化会館建設検討審議会

大洲市民文化会館建設に関する庁内検討委員会

施設	ホール機能の充実、災害備蓄品貯蔵庫、いつでも気軽に利用できる施設 など
諸室	子どもと一緒に楽しめる親子室、コワーキングスペース、サテライトオフィス など
設備	音響・照明の充実、避難所機能、健康増進のための軽運動設備等 など
屋外	周辺ウォーキングコース整備、屋外イベント広場 など

5 大洲市民文化会館(仮称)の整備にあたっての留意事項

(1)大洲市民文化会館(仮称)の役割

大洲市民文化会館(仮称)は、様々な舞台芸術の鑑賞や文化芸術活動の場としてだけでなく、まちづくりの重要な拠点としての役割も果たすことが期待されています。

(2)大洲市民文化会館(仮称)整備に求められること

新しい市民文化会館の整備に伴い、現市民会館の抱える課題等の解決を図ることはもとより、多様な文化芸術活動に対し柔軟な対応ができ、かつ、市民が日頃から気軽集える交流拠点としての施設整備が求められています。また、人口減少や少子化の中にあって、次代を担う子どもたちへ質の高い文化芸術に触れる機会を創出することで、子どもたちが思い描く『未来のカタチ』の一助となるよう、施設の在り方や規模、機能などについても検討することが求められています。

市民意見・関係団体等の意見まとめ

全般

バリアフリーの徹底

ホールエリア

- ・鑑賞事業や大規模な発表会に対応できる広い舞台
- ・舞台裏、搬入など、バックヤードの充実
- ・映像設備の充実、配信対応
- ・ゆったりした椅子
- ・客席を平土間にして多用途利用
- ・親子室、授乳室

創造支援エリア

- ・発表会もできる200～300人規模の小ホール
- ・リハーサル利用できる部屋
- ・防音性の高いスタジオ
- ・鏡張りの練習室
- ・お茶会や和楽器演奏に使える和室

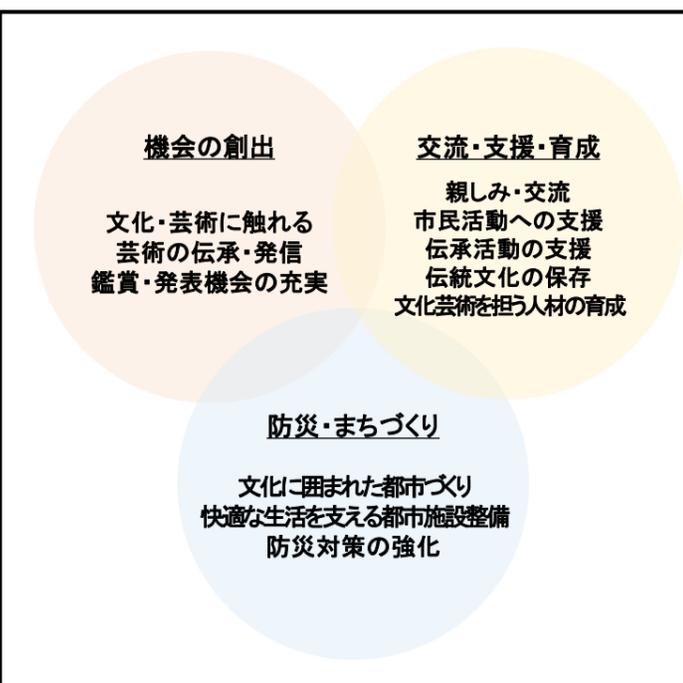
交流エリア

- ・明るく天井の高いロビー
- ・いろいろな世代が交流できるスペース
- ・勉強や読書ができる場所
- ・歴史や文化に触れられる情報スペース
- ・共用部での展示
- ・飲食や物販のできる場所
- ・電源やWi-Fiが使える

屋外スペース

- ・十分な数の駐車場
- ・休憩できるスペース、憩いの広場
- ・屋外イベントへの対応
- ・軽運動ができる
- ・四季を感じることでできるテラス
- ・災害時に避難場所として活用できる駐車場

6 大洲市民文化会館(仮称)の方向性



第2章 大洲市民文化会館（仮称）整備における基本的な考え方

1 大洲市民文化会館（仮称）整備の基本方針等

(1) 目的

『文化芸術と市民交流』拠点施設の整備

(2) 基本方針

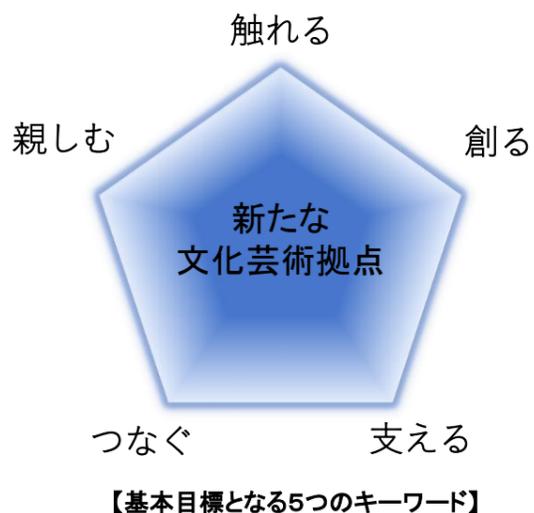
大洲市民文化会館（仮称）では、文化・芸術の鑑賞機会を提供するとともに、地域の文化資源に触れる機会の創出や、文化芸術を身近に感じられる環境を整備することで、想像力豊かな感性や郷土への愛着・誇りを醸成し、地域文化の振興を図っていきます。

市民の自主的な活動や新たな活動の支援を強化し、地域や世代間の垣根を超えた交流活動のサポートを行います。

また、平成30年（2018年）7月の豪雨災害及び南海トラフ巨大地震の被害想定を踏まえ、災害に強い施設整備を検討するとともに、コロナ禍における「新たな日常」に向けて、衛生環境や鑑賞環境、デジタルトランスフォーメーション等を積極的に取り入れるなど、後世に残すべき施設として、価値観の変化や将来を見据えた柔軟な対応ができる施設整備を目指します。

(3) 基本的な役割

基本目標①: 文化芸術に触れる機会を充実させる	音楽や演劇、地域の伝統芸能など、多様な文化芸術を鑑賞する機会を提供し、特に、子どもたちが身近に文化芸術に触れる環境を整え、豊かな感性を育みます。
基本目標②: 幅広い創造活動の拠点となる	日常的な練習の場と同時に、その成果を披露できる場を用意し、文化芸術の創造と発展を促進します。また、はじめての人でも気軽に参加できる活動から、更なる高みを目指して本格的に取り組む活動まで幅広い文化芸術活動を支えます。
基本目標③: 地域の文化・芸術を未来につなぐ	地域の民俗芸能や伝統文化の保存・伝承活動の支援に取り組むとともに、地域文化資源への関心を高め、価値を再発見することで、大洲市独自の文化の持続的な発展を促進します。 また、子どもの頃から、地域の文化に触れる機会を創出することで、未来へつなぐ人材育成を図っていきます。
基本目標④: 親しみを持てる憩いの場を提供する	誰でも気軽に施設に訪れ、日常的に文化芸術に触れながら、世代や活動団体の垣根を超えた幅広いコミュニケーションの創出の場、市民に親しまれる「交流の場」となるよう目指します。
基本目標⑤: 市民の安心・安全を支える	バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮し、利便性・快適性を高めるとともに、水害や大規模地震などの自然災害発生時や非常時において、市民の安心・安全を支えられるよう、災害に強い施設整備を目指します。



(2) 施設規模

施設の規模は、諸室の機能を多機能化することで、面積を抑えながらも多様な市民の利用ニーズに対応できるよう、基本計画において検討します。

(3) 駐車場

十分な駐車場の確保を望む市民の声が多く、敷地の広さやホール規模に応じて、最大限の駐車場台数が確保できるよう検討します。

(4) 施設配置

敷地形状や立地条件を踏まえ、歩行者や車利用者、搬入車両等、利用者の交通動線に配慮し、騒音・振動等の影響を極力抑えるような配置を検討します。また建物内においては、ホールの観客、出演者、主催者、搬出入、その他の施設利用者等の動線に配慮し、明確なゾーニングを検討します。

(5) 施設整備における配慮事項

安全性	地震や水害等の自然災害に対する強度、避難所機能 など
利便性、快適性	ユニバーサルデザイン、バリアフリー など
経済性、効率性	建設費のみでなく、維持管理費の抑制 など
環境共生	ゼロエネルギー、自然エネルギーの活用 など
デザイン	地域性、施設コンセプトとの整合 など
まちづくり	周辺環境との調和、観光資源との連携 など

3 大洲市民文化会館（仮称）の建設候補地について

(1) 建設候補地の選定に関する考え方

「大洲市立地適正化計画」を建設候補地選定に関する上位計画とし、同計画内で設定した「都市機能誘導区域」内において、建設候補地を選定しました。

(2) 建設候補地の抽出

都市機能誘導区域から図1の3カ所の建設候補地を抽出しました。

【表1: 建設候補地の比較】

(3) 各建設候補地の比較・評価

表1のとおり、制限事項や災害リスク、交通アクセス等の比較・評価を行いました。



建設候補地1 (現市民会館所在地)	建設候補地2 (愛媛たいき農業協同組合 移転後の用地)	建設候補地3 (大洲IC周辺)
市の観光拠点が集積するエリア。 平成30年豪雨災害時の浸水はなく、ハザードマップ上でも、現市民会館の位置は比較的安全である。 法規上の制限が他の候補地に比べて多い。 景観保全区域での建物の高さ制限、大洲城や石垣の景観にも配慮した配置の検討が必要のため、他の敷地と同規模の施設整備は難しい。大型車両の交通は難あり。 市民会館が不在の期間が発生するため、市の文化振興・市民の文化活動に対する影響が大きい。	JR伊予大洲駅に最も近いエリア。 平成30年豪雨災害時の被害状況を考慮した検討が必要である。 国道に近接し、大型車両のアクセスも容易。 近隣に学校・公共施設が分布し連携しやすい。 現在の市民要望の実現も可能な面積であり、総合福祉センターに隣接することから駐車場や会議室等の相互利用が可能となり、利便性の向上が図られる。	大洲ICから最も近く、近くに国道が走り、車のアクセスは良いが、周辺道路の渋滞が発生している。 平成30年豪雨災害時の被害状況、ハザードマップからみても敷地全体にわたって浸水リスクが高い。 用途地域や盛土規制による制限があるとともに、農地転用の手続きが必要。 現在の市民要望の実現が可能な面積であるが、駅や観光拠点、学校から離れる位置となるため、他施設との連携は図りにくい。

(4) 建設候補地の決定

自動車・公共交通利用を踏まえたアクセス条件、市民要望として最も意見の多かった駐車場の確保、利便性を考慮した周辺公共施設との相互利用・相乗効果などから、総合的に評価した結果、「愛媛たいき農業協同組合移転後の用地が最も適している」と判断し、建設候補地として決定しました。

第3章 大洲市民文化会館（仮称）における管理運営の考え方

大洲市民文化会館（仮称）は、本市の「文化芸術と市民交流」拠点として、あらゆる人が日常的に集い、交流し、まちづくりに寄与する施設となっていくことが求められます。そのためには、「質の高い文化芸術の鑑賞機会の提供」や「伝承・普及活動」、「地域文化を支える人材育成」など、充実した環境づくりや持続的な活動における仕組みづくりが重要です。

さらに、まちづくりに寄与する文化施設として、市内の公共施設はもちろん、教育機関や市外の文化施設等とも広域的な連携協力を図り、市民はもちろん近隣自治体住民に対する積極的な広報活動を行うことも必要となります。これらの内容については、基本構想を踏まえ、広く市民の意見を収集し、基本計画において詳細な内容を検討します。

2 大洲市民文化会館（仮称）に必要な機能と考え方

(1) 施設機能及び構成

① ホールエリア

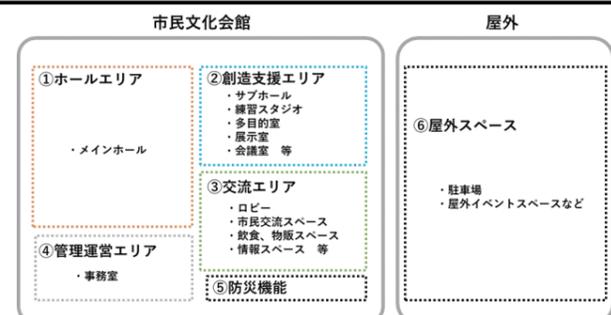
- 多様な用途に対応することができるホールとします。
- 収容人員の上限は800人程度とします。
- 舞台は、様々な演目に対応できる十分な広さとし、楽屋や搬入などバックヤードを充実させます。
- 客席については、鑑賞しやすいゆとりある広さとします。

② 創造支援エリア

- サブホールは、小規模な発表、展示等に対応できる仕様とし、収容人員の上限は300席程度とします。
- 防音機能などを備えた多目的室・練習室、展示スペースなどの諸室について検討します。

③ 交流エリア

- 市民交流スペース、情報コーナー、飲食や物販スペース、自由に使える什器、インターネット環境（Wi-Fi）の整備などについて検討します。



④ 管理運営エリア

- 総合案内や管理事務室などについて検討します。

⑤ 防災機能

- 災害時に対応した防災機能の充実を検討します。

⑥ 屋外スペース

- 駐車台数の最大化を図ります。
- 屋外イベント会場利用を検討します。